2005

独立行政法人 国立博物館

年報

平成17年度

平成17年度 年報 目次

Ⅰ　17年度事業実績報告
【法人全体】 …… 1
【東京国立博物館】
1　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置…… 17
2　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
⑴　収集・保管…… 21
⑵　公衆への観覧…… 27
⑶　調査研究…… 43
⑷　教育普及…… 55
⑸　国際交流…… 72
⑹　その他の入館者サービス…… 84
【京都国立博物館】
1　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置…… 87
2　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
⑴　収集・保管…… 90
⑵　公衆への観覧…… 93
⑶　調査研究…… 100
⑷　教育普及…… 103
⑸　国際交流…… 112
⑹　その他の入館者サービス…… 116
【奈良国立博物館】
1　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置…… 119
2　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
⑴　収集・保管…… 122
⑵　公衆への観覧…… 126
⑶　調査研究…… 138
⑷　教育普及…… 141
⑸　国際交流…… 153
⑹　その他の入館者サービス…… 157
【九州国立博物館】
1　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置…… 161
2　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
⑴　収集・保管…… 163
⑵　公衆への観覧…… 167
⑶　調査研究…… 174
⑷　教育普及…… 176
⑸　国際交流…… 188
⑹　その他の入館者サービス…… 192
Ⅱ　施設概要…… 195
Ⅲ　財務諸表…… 199
Ⅳ　評価
1　文部科学省独立行政法人評価委員会評価…… 224
2　独立行政法人国立博物館外部評価委員会評価…… 259
Ⅴ　日誌…… 268
Ⅵ　運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図、役職員名簿…… 280
附属資料：事業実績統計表…… 303

Ⅰ　事業実績報告

【 法人全体 】

1．運　　営

○方　　針

17年度は、５カ年に及んだ中期計画の最終年度に当たることを踏まえ、国立博物館の設置目的である
①　貴重な国民的財産である文化財を良好な状態で後世に伝え、文化の継承をしていく
②　文化財を広く国民に紹介し、文化の向上・発展に努める
③　我が国の「顔」として国際文化交流を推進する
④　ナショナルセンターとして国内外の博物館の充実に寄与する
に沿った事業を行い、中期計画に掲げた事項が着実に達成できるよう努めることとした。
また、国立博物館として、108年ぶりの開館となる九州国立博物館の開館に向けた準備及び開館後の運営が円滑に行われることを含め、以下の事項を重点化した。
1．九州国立博物館の開館
2．業務に合わせた柔軟な組織改革
3．国際文化交流の推進
4．平常展の活性化

○実　　績

1．九州国立博物館の開館
九州国立博物館は法人全体の協力のもと、10月16日に開館し、18年３月31日までに予想をはるかに上回る89万５千人の来館者を集めることができた。
＜東京国立博物館＞
・17年４月１日付けで、収蔵品59件（内、国宝３件、重要文化財17件、重要美術品４件）を無期管理換
・漆工作品103件の無期管理換を前提とした九州国立博物館への輸送
・展示・照明デザインの協力
2．業務に合わせた柔軟な組織改革
13年度の独法化以後順次進めていた「業務に合わせると同時にお客様へ広く開かれた組織」を目指し行われた組織改革は、17年度の奈良国立博物館の改組により、一応の終着点となった。
＜奈良国立博物館＞
４月１日に総務課を渉外課と改め、営業開発担当、利用者サービス担当を設けた。
3．国際文化交流の推進
○海外交流展
日本の歴史・伝統文化の海外への発信
＜東京国立博物館＞
・東京国立博物館蔵「西川寧書法芸術展」(中国国家博物館)
・「19世紀万国博覧会における日本美術」(ロサンゼルス・カウンティ美術館)

・「日本文化の輝き―東京国立博物館名宝展」（ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トガレワ）

・「中日書法珍品展」（上海博物館）

＜京都国立博物館＞

・「18世紀京都画壇の革新者たち」（サンフランシスコ・アジア美術館）

○学術文化交流

海外の博物館等との研究交流の推進

・国際シンポジウム「世界の現場から　今、博物館教育を問う―家族・学校・地域にむけての取り組み」の開催

海外から博物館の教育関係研究員を招聘し、博物館教育についての国際交流を深めた。（東京国立博物館大講堂、18年２月４日、参加者数205人）

＜東京国立博物館＞

・韓国･国立中央博物館との学術･文化交流協定に従った、収蔵品の貸与（貸与件数　98件（重文５件、重美２件）　うち長期貸与（19年９月まで）95件（重文３件、重美２件））

＜京都国立博物館＞

・国際シンポジウム「仏教美術にとっての東アジア往還　～渡海僧たちがもたらしたもの～」（国立京都国際会議場　11月12日　参加者数261人）

＜奈良国立博物館＞

・国際シンポジウム「新羅と古代日本瓦」「金工技術から見た古代日韓関係」「新羅のガラス」（18年２月25日　参加者数50人）

・韓国・国立慶州博物館、中国・上海博物館、中国国家博物館との間で研究員の相互派遣を実施

＜九州国立博物館＞

・「国際博物館シンポジウム」（10月18日　参加者数250人）

・「高句麗シンポジウム」（11月５日　参加者数300人）

・韓国国立文化財研究所との共催による国際シンポジウム「日韓の古代山城を掘る」（18年３月11日　参加者数300人）

・中国南京博物院と「泗水王陵出土木質文物」の保存に関する合作研究の実施

・中国内蒙古自治区文物考古研究所との企画展示および保存に関する合作研究

・エジプト壁画保存プロジェクトに研究員を派遣

○外国人のお客様への対応

多くの外国人のお客様に来館していただくための取組み

①　「JET 東京国立博物館特別鑑賞会」の開催（東京国立博物館）

JET プログラムの一環として「JET 東京国立博物館特別鑑賞会」（日本英語交流連盟・東京国立博物館主催）を実施し、日本に多数訪れている ALT（外国語指導助手）の日本文化への理解促進に努めた。（６月８日　参加者数102人）

②　外国語表記の充実

外国の方々に理解し、楽しんでいただけるよう作品解説等の外国語表記の充実に努めた。

＜九州国立博物館＞

英語による作品・テーマ解説に加え、英語・中国語・韓国語による音声ガイドを無料で貸し出した。（英・中・韓　貸出し実績：2,381台）

③　「留学生の日」の実施

九州国立博物館でも新たに開始（参加者数　４館合計1,625人）

４．平常展の活性化

お客様に“何度でも足を運んでみたい”と思っていただくために平常展の充実に取り組み、16年度と比べ、入館者数は６万４千人、11.8％の増加(九州国立博物館分を除く)という効果があった。

○平常展の企画

各館とも平常展の活性化を図るため時機に合わせた特別公開や特集陳列などを企画。

＜東京国立博物館＞

・特別公開「中宮寺　国宝　菩薩半跏像」「国宝　仏頭」「国宝・天寿国繍帳と聖徳太子像」

・特集陳列「幕末の怪しき仏画―狩野一信の五百羅漢図」「欧州を魅了した漆器と磁器」等

＜京都国立博物館＞

・特集陳列「長楽寺創建1200年記念　歴代遊行の軌跡」「古今集1100年 新古今集800年記念　和歌と美術」等を実施

・特集陳列「雛まつりとお人形」において、京都文化博物館、博物館さがの人形の家、宝鏡寺門跡と連携し、「京の雛めぐり」と題し、４所同時開催。

＜奈良国立博物館＞

・特別出陳「薬師如来立像」

・特別陳列「宿院仏師―戦国時代の奈良仏師―」「模造にみる正倉院宝物」等奈良をテーマに実施

○平常展の広報

＜東京国立博物館＞

・マスメディア220媒体に向けた毎月の定期的な情報発信の実施

＜京都国立博物館・奈良国立博物館＞

・「ぐるっとパス関西2005」に参加し、平常展の広報を活性化

＜京都国立博物館＞

・「館長お薦めの一品」を毎月選定し、平常展広報の活性化を図った。

・修学旅行生確保のための様々な取組みを行った結果、入館者増に繋がった。

　全国の旅行会社や首都圏の学校へ案内を送付

　タクシー会社へ観光ルートの一部となるよう営業

　社団法人京都市観光協会主催「修学旅行パスポート」への協力

○自己点検評価

【トップマネジメント】

役員会　開催回数10回　　国立博物館の運営方針を決定する会議として理事長のリーダーシップの下、主に以下の運営を大きく左右する案件に対応した。

１．総務省「独立行政法人に関する有識者会議」主導による第１期中期計画期間満了に伴う独立行政法人の業務の見直しへの対応

文化財の保存・活用を一層効率的かつ効果的に実施する観点から、独立行政法人文化財研究所と統合することとなった。

２．内閣府「規制改革・民間開放推進会議」主導による市場化テストへの対応

18年度の市場化テストの対象ではなくなったが、市場化テストの継続的検討及び民間委託の一層の推進を求められることとなった。

３．第２期中期計画期間における自己収入予算額（ノルマ）引き上げへの対応

18年度からの第２期中期計画においては自己収入予算額が大幅に引き上げられると同時に、運営費交付金が大幅に引き下げられた。これらの状況を鑑みて、平常展入場料金の値上げを実施する必要があることを確認。18年10月より値上げをすることを決定した。

【外部有識者の提言への対応】

国立博物館が外部有識者からの提言を受ける場としては、以下の会議がある。

１．独立行政法人国立博物館運営委員会

２．独立行政法人国立博物館外部評価委員会

３．各館における評議員会

４．文部科学省独立行政法人評価委員会

これらの会議を通して受けた提言は法人として検討した上、できる限り対応し、運営に反映していきたいと考えている。提言により実施された例としては中学美術の授業向け教科書「日本美術の授業」（東京国立博物館）の作成などがある。

【「お客様の声」への対応】

来館されるお客様やメール等を通したお客様のご意見は、運営における有用なデータとして非常に重要である。法人としてはお客様からいただいたご指摘・ご意見に対しては、喫煙場所の変更、休憩スペースの充実を行うなど迅速に対応するよう努めている。

また、現在、特別展においてはアンケート調査を実施しており、今後も継続的にお客様の声を吸い上げて、お客様のニーズに対応したサービスを展開していきたいと考えている。

【評価】

各事業の詳細は、17年度実績報告書・統計資料に譲ることとするが、一部目標値を下回った事業もあったが全体としては運営方針に基づき着実な成果が上げられたものと考えている。

国立博物館は文化財研究所と19年４月の統合に向けて準備を進めているが、博物館としての中核的な機能を一層充実しつつ、統合効果による効率的な運営ができるよう組織の在り方を検討していく必要がある。

「世界遺産・博物館島 ベルリンの至宝展―よみがえる美の聖域」（共催展）

○方　　針

　ベルリン博物館島の再構築を控え、世界的に貴重な美術作品を多数収蔵するベルリン博物館島のコレクションの代表作を一挙に公開し、その意義と美の真髄に迫る。

1）開会期間　４月５日～６月12日（61日間）
2）会　　場　平成館２階　特別展示室第１室～第４室
3）主　　催　東京国立博物館、朝日新聞社、ＴＢＳ
　・学術協力　プロイセン文化財団ベルリン国立博物館群
　・企画協力　東映
4）陳列品総件数　164件
5）入館者数　33万7,475人（目標13万人）
6）入場料金　大人　1,400円　　高校・大学生　1000円　小・中学生以下無料
7）担　　当　後藤健上席研究員　ほか２人
8）アンケート結果　満足度85.3％

展覧会の内容

　ヨーロッパでも最大級の規模と質を誇るベルリン国立博物館群のコレクションの中から､「聖なるもの」をテーマに、先史時代～19世紀までの文化財164件を厳選し、ベルリン博物館島の全貌を日本ではじめて紹介した。先史時代からヨーロッパ近代美術まで、全体を10章によって構成し、ヨーロッパ文明形成史の一側面を第一級の文化財により示した。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

・世界遺産「ベルリン博物館島」５館の９コレクションを代表する作品群を一同に集め、近代ヨーロッパ文明の源流を古代オリエント文明までさかのぼって解説するという未曾有の試みであり、大きな反響を呼んだ。
・時代・地域を超えた「聖なるもの」というコンセプトは、観客に理解しやすいものであった。
・出品作品が多岐にわたり、来館者の幅広い関心に応えることができた。
・これまで東京国立博物館で展観する機会の少なかった分野の作品が多く含まれていたが、作品の保全についても万全を期し、文化財の保存の面においても充分な責任を果たすことができた。

【見直し又は改善を要する点】

・作品リスト等の変更や､展覧会図録等で使用する原稿準備の遅れ､またその内容や水準等が定まっていなかったため、準備段階で多大な労力を必要とした。外国との諸事の調整には、一層入念な事前調整、準備を行い、充分な作業時間を見込んでおく必要がある。

「龍馬の翔けた時代―その生涯と激動の幕末―」（共催展）

○方　　針

龍馬が家族や友人に書き送ったユーモアに溢れる書簡を中心に、京都の争乱や文化的な側面にも光をあて、龍馬が翔け抜けた幕末という時代を浮き彫りにする。

1）開会期間　７月16日～８月28日
2）会　　場　特別展示館
3）主　　催　京都国立博物館、京都新聞社
　　後　　援　エフエム京都
4）陳列品総件数　162件（うち重要文化財　20件、重要美術品　１件）
5）入館者数　４万9,830人（目標　３万人）
6）入場料金　大人1,200円　高校・大学生800円　小・中学生400円
7）担　　当　宮川　禎一　ほか１人
8）アンケート結果　満足度89％

展覧会の内容

龍馬の書簡・遺品を中心に、近世後期を代表し、自らも尊王思想を持った画家による絵画作品、ペリーの浦賀来航を驚きと好奇の眼差しで描いた瓦版や絵巻の類、龍馬が生まれ育った土佐の風土と坂本家に関する資料、京都を中心とした幕末の諸争乱の様子を描いた絵図や瓦版などを展示する。龍馬が参加した関門海峡での海戦関係資料や龍馬と交流のあった人々の資料などもあわせ、龍馬が何を考え、表現し、行動したかをたどった。

○自己点検評価

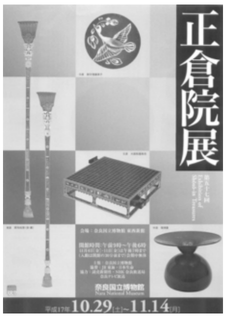
【良かった点、特色ある点】

・日本史上大変人気の高い坂本龍馬という人物の生涯をその書簡を通じてたどった点に評価が集まった。特に現存する130通余の龍馬書簡のうち、半数を超える60余通の書簡を集めた点が高く評価された。
・坂本龍馬のみならず、河田小龍や中浜万次郎、武市半平太、中岡慎太郎など龍馬をとりまく人々にも焦点を当てて幕末史の理解を促した。
・禁門の変や長幕戦争、鳥羽伏見の戦いなど幕末史を動かした事件を瓦版や絵画資料から視覚的に展示した点も好評であった。
・観覧者の約半数が20歳代からそれ以下という若さであり、京都国立博物館へ初めて来館したという観覧者も多く、若年層の開拓にもつながった。
・春に開催した「曾我蕭白」展の観覧者に周知できるようプレチラシ･ポスターを作成した。また、ホームページの展覧会紹介ページ３ヶ月前に作成した。

【見直し又は改善を要する点】

・坂本龍馬をテーマとした展覧会としては、例年夏期に小規模な特集陳列を開催してきたが、今回の特別展覧会との差異が十分に理解されておらず、その違いをもっと強調すべきであった。
・新発見資料などがなく、マスコミ広報の面で若干弱さがあった。今後は、そういったことにも留意しつつ展覧会を企画していく。
・アンケート結果より、来館者の来館目的の約６割が「坂本龍馬に興味があったから」と答えており、基礎的な「龍馬ファン」以外の幅広い層へのアピールという点では若干弱かった。

「第57回正倉院展」（特別展）



○方　　針

　昭和21年から開始され、国民的行事として定着している恒例の正倉院展は、正倉院宝庫の宝物点検の際に宮内庁から例年約70件の貸与を受け、当館にて公開展示するものであり、本年度で57回目を数える。奈良時代の優れた文化財を鑑賞するまたとない機会として例年多数の入館者があり、その中には固定的ファンも多く、奈良朝文化に一定の知識を有する研究者に対しても十分な満足感を与える展示を目指す。
　また、最近の新しい調査結果を反映させる内容となるように配慮する。

１）開会期間　10月29日～11月14日
２）会　　場　東・西新館
３）主　　催　奈良国立博物館
４）陳列品総件数　69件（うち初公開20件）
５）入館者数　23万4,391人（目標13.5万人）
６）入場料金　1,000円　高校・大学生700円　小・中学生400円
７）担　　当　内藤　榮、清水　健　ほか11人
８）アンケート結果　満足度71％

展覧会の内容
　聖武天皇と光明皇后御遺愛の品々をはじめ、東大寺ゆかりの儀式具・荘厳具、仏具、献物几・献物箱、天平時代の装身具、文書、珍材等を出陳し、正倉院宝物の全容が概観できる内容とした。今回は特に遊戯具、楽舞関係の遺品、また珍貴な材料を用いた遺品が多く出陳され、最近の調査研究の成果を反映した展示となった。

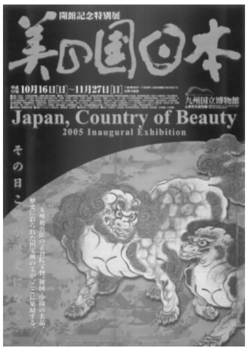
○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】
・初出陳の作品を加えて、リピーターにとっても新鮮味のあるより興味深い展示となった。
・読売新聞社の全面的な広報協力を得ることができたため、広報の徹底を図ることができ、過去最高の入館者数を記録した。
・11月１日に実施した「留学生の日」にあわせ、留学生を対象に「着物で正倉院展を見よう」と題し、イベントを実施したことにより、日本文化の理解を深め、参加者から好評を得た。
・昨年に引き続き、小・中学生の観覧理解促進のため、一般の音声ガイドに加えて、子供向け音声ガイドを導入した。
・奈良市観光協会及びＪＲ東海の協力を得て、東京駅他首都圏を中心にチラシを４都市６ヶ所の駅に設置するとともに、読売新聞社の協力を得て、東京駅でのパネル展示及び関東の主要駅において大規模なポスター広告をすることにより、関東方面への広報の充実を図ることができた。
・学習コーナーにおいて工芸技術記録映画及び出陳作品に関するビデオを上映することにより、工芸技術に対する理解を深めることができた。
・お茶会、バロックコンサートなどの関連行事を開催し、憩いの場と話題作りに努めた。
・奈良県農林部による「奈良のうまいもの」キャンペーン及び大和郡山市による観光ＰＲの会場提供を行い、地方公共団体と連携し話題作りに努めた。

【見直し又は改善を要する点】
・連日、想定を超える入館者数であったため、観覧者の流れがスムーズでないところがあった。陳列品の配置や音声ガイドの解説場所を工夫し観覧者の流れを改善したい。

開館記念特別展「美の国　日本」（共催展）

○方　　針



開館記念として、対外交流が最も劇的であった２つの時期をとりあげて展観する。ひとつは、奈良時代を中心とする時期である。第１部「アジア古代王朝の精華」として、アジアの文化交流の中で醸成された、中国、韓国、日本に伝わる名宝が一堂に会するものである。もうひとつは、桃山時代で、第２部「大航海時代の日本」と銘打って、天文18年（1549）のザビエル来日を契機に、初めて西洋文明と接した頃の日本を再現する。これにより、日本が美を追究することにいかに情熱を注いだ国であったかを浮かびあがらせようとするものである。

１）開会期間　10月16日～11月27日
43日間（無休）
２）会　　場　３階 特別展示室
３）主　　催　文化庁、九州国立博物館、福岡県、西日本新聞社
４）陳列品総件数　126件(うち国宝７件、重要文化財32件、重要美術品３件)
５）入館者数　44万1,938人（目標　６万人）
６）入場料金　大人1,300円　高校・大学生1,000円　小・中学生600円
７）担当　17人
８）アンケート結果　満足度　75.8％

展覧会の内容

開館記念として、日本の対外交流が最も劇的であった２つの時期をとりあげて展観する

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

「美の国　日本」については、海外５カ国及び日本全国から国宝クラスの貴重な文化財を一堂に集めることがかない、多くのお客様から好評を得た。また、お客様からの要望に対しても、可能な限り迅速に対応し、展示環境の向上に努めた。

【見直し又は改善を要する点】

・「美の国　日本」では開館時の大混雑を予測しきれず、展示室内の照度や解説パネルの位置、見学動線などについて対応しきれなかった。これらの点は「中国美の十字路」でかなり改善した。
・お客様の靴や着衣に伴って入り込む砂や土をいかに軽減するか、いかに清掃していくかについてはいまだ試行の段階である。清掃の問題は展示室に限らず外構を含めた館全体の問題であり、現在のところ、全体的な視野から見直しを図り対応を進めている。